

別表2 授業科目の種類  
亜熱帯地域農学科

コース等名	科目番号	授業科目	単位	コース等名	科目番号	授業科目	単位
学 部 共 通 科 目	農共101	食・農・環境概論	2	循 畜 産 環	地252	家畜飼養栄養学	2
	農共102	基礎フィールド実習	1		地253	草地農業論	2
	農共301	キャリアディベロップメント	1		地254	家畜飼料学	2
	農共302	キャリア実習	1		地351	家畜環境管理学	2
学 科 共 通 専 門 科 目	地111	食農資源経済学	2		地352	家畜行動管理学	2
	地211	農林経営経済学	2		地353	家畜微生物学	2
	地231	植物開発学	2		地354	畜産資源経済学演習	2
	地251	循環畜産学	2		地355	家畜飼料管理学実験	1
	地271	動植物人間関係学	2		地356	家畜衛生学	2
	地272	フィールド実習 I	1		地357	畜産資源経済学	2
	地273	フィールド実習 II	1		地359	家畜環境衛生学実験	1
	地201	亜熱帯地域農学演習	2		地451	家畜疾病学	2
	地501	外国文献講読 I	2		地551	循環畜産学特別講義 I	2
	地502	外国文献講読 II	2		地552	循環畜産学特別講義 II	2
	地503	卒業論文 I	4		地274	フィールド実習 III	1
	地504	卒業論文 II	4		地275	園芸福祉学概論	2
農 経 済 学	地212	森林環境経済学	2	農 共 生 林 学	地372	家畜福祉論	2
	地213	農業政策学	2		地373	畜産共生技術論	2
	地311	農業経営学	2		地377	畜産周辺関係学	2
	地312	農産物流通学	2		地381	農業実践論	2
	地313	森林政策学	2		地383	森林情報計測学	2
	地317	森林経営計画学	2		地384	森林情報計測学実習	1
	地319	農業政策学演習	2		地379	森林ツーリズム論	2
	地320	農産物流通学演習	2		地387	作物栽培環境学	2
	地321	森林経営計画学演習	1		地388	緑化修景施工論	2
	地322	経済学概論	2		地389	造園施工基礎演習	1
	地323	環境経済学	2		地391	造園施工演習	1
	地324	農村調査演習実習	2		地392	森と人間の文化論	2
植 開 発 物 学	地325	森林政策学演習実習	2		地571	農林共生科学特別講義 I	2
	地390	比較林政学	2		地572	農林共生科学特別講義 II	2
	地411	アグリビジネス論	2	他 学 科 提 供 科 目	環231	生物統計学	2
	地412	島嶼農業論	2		環253	森林植物学	2
	地232	基礎遺伝学	2		環257	造林学	2
	地331	植物育種学	2		環258	森林保護学	2
	地332	園芸学概論	2		環264	樹木生理・遺伝育種学	2
	地333	種苗生産学	2		環275	食料生産と環境	2
	地334	熱帯果樹園芸学	2		環311	植物病理学概論	2
	地335	植物育種学実験	1		環316	熱帯作物学	2
	地336	蔬菜園芸学	2		環331	家畜生理学	2
	地337	観賞植物園芸学	2		環332	家畜繁殖学	2
	地338	園芸学実験	1		環335	家畜育種学	2
	地339	植物開発学演習	1		環357	森林生態学	2
	地340	植物生産学	2		環372	応用昆虫学	2
	地531	植物開発学特別講義 I	2		工211	農業生産システム論	2
	地532	植物開発学特別講義 II	2		資251	生命科学	2
学部提供公開科目				農共212	亜熱帯林体験実習	1	
教員免許 取得のための 授業科目				農職401	農業科教育法 I	2	
				農職402	農業科教育法 II	2	
				地職401	職業指導	2	

別表3 授業科目の履修方法、単位数及び週時間

## 亜熱帯地域農学科

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
農共101	食・農・環境概論	2	2-0	1	前	琉球大学農学部が目指す農・食・環境の考え方を解説する。	●	●	●	●
農共102	基礎フィールド実習	1	0-3	1	前	農業・林業・畜産業に関する実習をオムニバス形式で行う。	●	●	●	●
農共301	キャリアディベロップメント	1	2-0	3	前	社会における職業に対する考え方、専門性が社会に持つ意味と重要性について議論し、社会的・職業的自立を考えるとともに、就職支援のための講義と演習を行う。	●	●	●	●
農共302	キャリア実習	1	0-3	3	前	学外の亜熱帯地域農学に関連する機関や組織、その他における現地実習を通じて実務経験・能力を養う。	○	○	○	○
地111	食農資源経済学	2	2-0	1	後	社会・経済的視点からみた世界と日本の食料・農業・農村の現状と動向について概説する。	●	●	●	●
地211	農林経営経済学	2	2-0	2	前	農林業にかかわる基礎理論とその応用、世界経済の中での農林業の諸問題、地域農林業の果たす役割等について解説する。	●	●	●	●
地231	植物開発学	2	2-0	2	前	植物資源開発の歴史から高度な植物資源の開発・利用方法までを概説する。	●	●	●	●
地251	循環畜産学	2	2-0	2	前	畜産業は物質循環型農業システムであることを説明し、システム維持のための理論と展開方法について概説する。	●	●	●	●
地271	動植物人間関係学	2	2-0	2	後	農業の多面的機能、自然生態系の均衡を理解し、動植物との共生関係と動植物から受ける癒しの位置付けを概説する。	●	●	●	●
地272	フィールド実習Ⅰ	1	0-3	2	後	フィールドにおける植物栽培・管理を対象とする基礎的実習を行う。	●	●	●	●
地273	フィールド実習Ⅱ	1	0-3	2	後	フィールドにおける家畜飼育・管理を対象とする基礎的実習を行う。	●	●	●	●
地201	亜熱帯地域農学演習	2	0-2	2	後	与えられた課題について少人数グループで書籍、文献、Web等から情報を収集・整理・加工しプレゼンテーションを行う。	○	○	○	○
地501	外国文献講読Ⅰ	2	2-0	3	前	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●	●
地502	外国文献講読Ⅱ	2	2-0	3	後	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●	●
地503	卒業論文Ⅰ	4	0-8	4	前	各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を企画立案し、実験・調査を進める。	●	●	●	●
地504	卒業論文Ⅱ	4	0-8	4	後	各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を継続させ、論文を提出する。	●	●	●	●
地212	森林環境経済学	2	2-0	2	前	森林をめぐる国内外の諸問題（森林環境問題、木材貿易、新たな森林産業の展開など）について解説する。	○	○	○	○
地213	農業政策学	2	2-0	2	後	農業生産における政策の意義と役割について解説する。	○	○	○	○
地311	農業経営学	2	2-0	3	前	技術と経済が結節する生産の単位である農業経営の基礎理論について解説する。	○	○	○	○
地312	農産物流通学	2	2-0	3	前	生産者・消費者双方の視点から現代における農産物の市場構造と流通システムについて概説する。	○	○	○	○
地313	森林政策学	2	2-0	2	後	森林・林業・木材産業に関する政策・法律・組織・歴史および国内の現状について解説する。	○	○	○	○
地317	森林経営計画学	2	2-0	3	後	森林の管理経営を効果的で持続的に実施するための森林計画の立案、実行及び結果の評価に必要な理論と方法を解説する。	○	○	○	○
地319	農業政策学演習	2	2-0	3	後	農業政策の理論と役割に関する共同討議を行う。	○			
地320	農産物流通学演習	2	2-0	3	後	食料・農業を取り巻く経済的・社会的諸問題や農産物の市場・流通問題について発表及び討論を行う	○			
地321	森林経営計画学演習	1	0-3	3	後	森林経営計画と森林施業に関する基礎理論とその応用について共同討議する。	○			
地322	経済学概論	2	2-0	3	前	経済学の基礎に関する概説	○			
地323	環境経済学	2	2-0	3	前	公共経済学の理論を基礎として、環境税や排出権取引制度、廃棄物対策等、環境政策の評価について講義する。	○			
地324	農村調査演習実習	2	2-2	3	前	農村調査は農業、農村や農家経済の実態を把握する上で重要な手法であり、この科目では調査の設計から実態調査を経て、報告書作成に至る一連の過程を修得する。	○	○	○	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
地325	森林政策学演習実習	2	1-3	3	前	グループ毎に森林に関するアンケート調査や針葉樹人工林の每木調査・定性間伐・造材・搬出等の作業実習を行い、間伐前後の環境変化の測定、労働生産性の評価、木材の生産販売における経済分析について講義・討議を行う。	◎	○	○	○
地390	比較林政学	2	2-0	3	後	欧米先進国を中心とする諸外国の森林・林業政策と国際的な森林問題について解説する。	◎	○	○	○
地411	アグリビジネス論	2	2-0	2・3	前	農業協同組合を含むアグリビジネスの産業構造と展開過程及び発展戦略について概説する。	◎	○	○	○
地412	島嶼農業論	2	2-0	4	前	第一次産業を中心に生活の基盤としての島嶼の生産のあり方について考える。	○	○	○	○
地232	基礎遺伝学	2	2-0	2	後	細胞分裂、遺伝の法則、連鎖、遺伝子、染色体などについて概説する。	○	◎	○	○
地331	植物育種学	2	2-0	3	前	植物育種の基礎理論および実際の育種法を詳説する。	○	◎	○	○
地332	園芸学概論	2	2-0	3	前	園芸は果樹、蔬菜および花卉部門からなっている。本講義はこれら園芸部門に共通する基本的知識と技術を概説する。	○	◎	○	◎
地333	種苗生産学	2	2-0	3	前	種苗生産が重要性を雑種性との関連で概説し、植物繁殖の原理、種苗育成の概要、育苗技術を数種植物を事例に説明する。	○	◎	○	○
地334	熱帯果樹園芸学	2	2-0	3	前	熱帯果樹に関する基本的知識と技術を概説する。	○	◎	○	○
地335	植物育種学実験	1	0-3	3	前	作物育種の基礎理論と基礎技術に関する実験を行う。	◎			
地336	蔬菜園芸学	2	2-0	3	後	園芸学は果樹園芸、蔬菜園芸、花卉園芸からなる。この講義では、蔬菜園芸における基礎的、応用的な技術を概説する。	○	◎	○	○
地337	観賞植物園芸学	2	2-0	3	後	花卉園芸植物の分類、生態および栽培法について概説する。	○	◎	○	○
地338	園芸学実験	1	0-3	3	後	熱帯作物の繁殖と栽培に関する実験を行う。	◎			
地339	植物開発学演習	1	0-3	3	後	植物開発学に関する課題の演習を行う。	◎			
地340	植物生産学	2	2-0	3	後	熱帯・亜熱帯地域の耕地環境下での作物の物質生産の仕組みを中心に、その環境下で生育する作物の栽培、生理、生態及び育種を総合的に理解するための科目である。	○	◎	○	○
地531	植物開発学特別講義Ⅰ	2	2-0	3	前	植物開発に関する最近の研究成果について教授する。	○	◎	○	○
地532	植物開発学特別講義Ⅱ	2	2-0	3	後	分子遺伝に関する最新の知見・情報について概説する。	○	◎	○	○
地252	家畜飼養栄養学	2	2-0	2・3	前	飼料成分と家畜栄養成分を個別に解説し、各成分の消化・吸収・代謝について教授する。	○	○	◎	○
地253	草地農業論	2	2-0	2	後	循環型畜産の基盤となる草地について、その成立過程や利用の現状、社会経済的な位置付けについて解説する。	○	○	◎	○
地254	家畜飼料学	2	2-0	2	後	家畜の飼料の分類と調製する際の家畜栄養との関連、飼料安全法など関連法規についても教授する。	○	○	◎	○
地351	家畜環境管理学	2	2-0	3	前	暑熱条件を中心とした環境が家畜生産に及ぼす影響、また、家畜生産が環境に及ぼす影響について教授する。	○	○	◎	○
地352	家畜行動管理学	2	2-0	3	前	家畜の行動管理に関する専門用語と基本的概念、行動発現のしくみ、家畜の管理について解説する。	○	○	◎	○
地353	家畜微生物学	2	2-0	3	前	家畜関連の微生物の分類、形態、生理、代謝、培養条件、遺伝・変異、消毒・化学療法、感染、免疫等の基礎的内容を教授する。	○	○	◎	○
地354	畜産資源経済学演習	2	2-0	3	前	畜産部門は特に飼料確保を通じて世界と結びついている。この演習では、畜産資源経済に関わる基本的なテキストを輪読し、畜産の生産、加工、流通、消費について議論する。	◎			
地355	家畜飼養管理学実験	1	0-3	3	前	家畜栄養成分成分測定、並びに飼養管理技術について実験する。	◎			
地356	家畜衛生学	2	2-0	3	後	家畜疾病予防、各種疾病各論、飼養衛生、管理衛生、家畜衛生関連法規について教授する。	○	○	◎	○
地357	畜産資源経済学	2	2-0	3	後	畜産部門は世界の経済と強く結びつきつつ展開している。この講義では、飼料や畜産物の生産と流通の現状について、経済学的な見地から解説する。	○	○	◎	○
地359	家畜環境衛生学実験	1	0-3	3	後	前半は家畜衛生学に関する基礎的な実験・実習、後半は家畜を取り巻く畜舎環境および排せつ物やその処理に関する測定方法等の実験・実習	◎			
地451	家畜疾病学	2	2-0	2・3	後	人獣共通伝染病をはじめ牛豚鶏における個々疾病について説明する。	○	○	◎	○
地551	循環畜産学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前	畜産学関連の最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
地552	循環畜産学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	後	畜産学関連の最新の知見・情報について概説する。	○	○	○	○
地274	フィールド実習Ⅲ	1	0-3	2	後	フィールドにおける森林管理を対象とする基礎的実習を行う。主に与那フィールドでの集中実習。	○	○	○	◎
地275	園芸福祉学概論	2	2-0	2	後	園芸福祉の考え方や目標、実践方法、運営方法などについて教授し、「農」の持つ新たな役割について論述する。	○	○	○	◎
地372	家畜福祉論	2	2-0	2・3	前	家畜の福祉とは何か?、家畜生産における家畜福祉の考え方を多面的に教授する。	○	○	◎	◎
地373	畜産共生技術論	2	2-0	3	前	畜産とそれを取巻く諸事象について、社会的・科学的領域を解説する。	○	○	○	◎
地377	畜産周辺関係学	2	2-0	3	後	家畜管理の理論と技術、国内外の畜産技術について解説する。	○	○	○	◎
地381	農業実践論	2	2-0	3	後	農業やその生産・生活環境に関連する学外の専門家、農業経営者技術者、また農業行政の担当者等による講義。	○	○	○	◎
地383	森林情報計測学	2	2-0	3	前	森林に関わる幅広い情報を紹介するとともに、森林計測の意義について説明する。森林計測の技術や理論については、詳細な説明を行う。	○	○	○	◎
地384	森林情報計測学実習	1	0-3	3	後	森林内で森林計測方法を習得する。計測によって得られたデータの処理および解析にも取組み、森林情報として取りまとめる。集中形式で実施する。	○	○	○	◎
地379	森林ツーリズム論	2	2-0	3	前	国内外の森林をめぐるツーリズムの現状を解説し、学生自らツーリズムの課題に取組む。	◎	○	○	◎
地387	作物栽培環境学	2	2-0	3	後	持続的な高品質作物栽培と環境保全型作物のための作物生産機構、土壤、肥料、雑草管理、連作及び間作技術について教授する。	○	○	○	◎
地388	緑化修景施工論	2	2-0	2・3	前	庭園や緑地の一般的な知識、緑化・造園樹木の管理や施工法に関する知識および関係法規等について教授する。	○	○	○	◎
地389	造園施工基礎演習	1	0-3	2・3	後	造園施工に関する基礎的な技法について演習を行う。	○	○	○	○
地391	造園施工演習	1	0-3	3・4	前	垣根製作、敷石や飛石の据付など造園施工の技法に関する演習を行う。	○	○	○	○
地392	森と人間の文化論	2	2-0	3	後	森と人との共生圏における森林が持つ多面的機能を考察し、燃料確保、食料生産、景観維持、文化的(精神的・宗教的)な価値などについて概説する。また、持続的な森林の利用と保全に関する諸課題について社会経済的側面から論述する。	○	○	○	◎
地571	農林共生科学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前	農林共生科学関連の最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○
地572	農林共生科学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	後	農林共生科学関連の最新の知見・情報について概説する。	○	○	○	○
環231	生物統計学	2	2-0	2	前	農学ならびに生物学分野で得られたデータの要約と推定方法、検定方法について解説を行う。	●	●	●	●
環253	森林植物学	2	2-0	2	前	樹木の外部形態および内部の組織構造、樹木の成長機構と繁殖様式について学ぶ。	○		○	
環257	造林学	2	2-0	2	後	需要に合わせた木材資源の効率的生産のため、森林生態学に則った持続可能な森林の取り扱いと森林の保育管理技術に関する基礎理論を学ぶ。	○		○	
環258	森林保護学	2	2-0	2	後	樹木の病理学の基礎となる概念を解説し、菌類病を中心とした森林植物の生物病害について基礎的知識を講義する。	○		○	
環264	樹木生理・遺伝育種学	2	2-0	2	前	樹木の光合成や呼吸、蒸散を中心とした生理機構の仕組みや樹木の遺伝様式などの遺伝育種、林木育種事業について学ぶ。	◎		○	
環275	食料生産と環境	2	2-0	2	後	地球環境に関わる食糧生産について概説し、農作物の生産性の増大を図り、持続的生産を可能とする作物の栽培管理法について解説する。	○	○	○	◎
環311	植物病理学概論	2	2-0	2	前	作物生産上不可欠である植物病の防除のため、基礎微生物学から最新のバイオテクノロジーの技術に関する知識を教授する。	○	◎	○	○
環316	熱帯作物学	2	2-0	2・3	後	熱帯作物の形態、性状、来歴、生理生態的特性、生産過程および栽培法を概説する。	○	◎	○	○
環331	家畜生理学	2	2-0	2・3	前	動物の生命保持に不可欠な機能について解説し、その生体における役割を解説する。	○	○	◎	○
環332	家畜繁殖学	2	2-0	2	前	各種家畜における多様な生殖様式について内分泌学的な面から解説する。	○	○	◎	○
環335	家畜育種学	2	2-0	3	後	近代育種学の基礎となる遺伝的パラメータの推定方法、個体育種価の予測法について解説する。	○	○	◎	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
環357	森林生態学	2	2-0	2	後	森林における生物-環境間や生物間の相互作用の理解に基づいて、森林生態系の一次生産や維持・更新機構、物質・エネルギー循環、生態系機能について概説する。	○	○	○	◎
環372	応用昆虫学	2	2-0	2・3	前	近年の総合的害虫管理技術や方法論を体系的に解説し、島嶼における害虫管理や環境保全に関する近年のトピックを学ぶ。	○	◎	○	○
工211	農業生産システム論	2	2-0	2	前	生物生産をシステム工学的な観点から整理し、その基礎技術を学び、機械化・情報化による高度な生産システムについて概説する。			○	
資251	生命科学	2	2-0	2	後	生物の誕生、進化、細胞の構造と機能、エピジェネティクスなど生命の仕組みについて講義する。				○
農共212	亜熱帯林体験実習	1	0-3	2	前	亜熱帯林について、幅広い知識の習得を目指す。全国単位互換「公開森林実習」該当科目	自由			

注1. 履修にあたっては、教育コース別区分欄から選択すること。

A : 農林経済学コース

B : 植物開発学コース

C : 循環畜产学コース

D : 農林共生学コース

注2. ● : 必修科目、◎ : 選択必修科目、○ : 選択科目、自由 : 自由選択科目

#### 【教員免許状取得のための授業科目】

※入学年度の「教員免許状取得の手引き」を参考に、必要な単位数、授業科目名について必ず年次教職課程指導教員に相談してください。

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	免許状の種類
農職401	農業科教育法Ⅰ	2	2-0	3・4	前	学習指導要領における農業科の目標・内容を学習し、学習評価について理解し、具体的な授業実践について学ぶ。	
農職402	農業科教育法Ⅱ	2	2-0	3・4	後	農業科の基礎的な学習指導の理論・方法等を学び、実習指導や教材活用を含めた授業設計について理解する。	高一種免 (農業)
地職401	職業指導	2	2-0	3・4	前	実践的側面に重点を置いた職業教育、産業教育の基礎を学ぶ。	

別表4 卒業の要件 亜熱帯地域農学科

1. 共通教育		必要単位数	※( )内は必修科目
<b>基盤領域</b>			
外国語科目	8 単位 (大学英語, 英語講読演習中級)	24 単位	38 単位 ※1
データリテラシー科目	2 単位 (情報科学演習)		
アカデミックスキル科目 生物系	5 単位 (生物学 I・II, 生物学実験)		
化学系※2	5 単位 (化学 I・II または化学入門 I・II, 化学実験)		
キャリア・ダイバーシティ科目	2 単位 (キャリア形成入門)		
健康運動系	2 単位 (健康・スポーツ科学)		
<b>教養領域</b>			
人文社会科学系科目	4 単位	4 単位	86 単位 以上
自然科学系科目			
琉大特色・地域創生科目			
グローバル科目			
2. 専門教育		必要単位数	※( )内は必修科目
学部共通科目	4 単位 (食・農・環境概論, 基礎フィールド実習, キャリアディベロップメント)	4 単位	56 単位 以上
学科共通科目	26 単位 (食農資源経済学, 農林経営経済学, 植物開発学, 循環畜産学, 動植物人間関係学, フィールド実習 I, フィールド実習 II, 生物統計学, 外国文献講読 I, 外国文献講読 II, 卒業論文 I, 卒業論文 II )	26 単位	
コース専門科目 選択必修科目 ※3	16 単位以上		
選択科目 ※4	40 単位以上		
合計 124 単位以上			

※1 指定科目以外の10単位は、基盤領域、教養領域から自由に選択する。ただし、アカデミックスキル科目に関しては、同一科目において入門との重複は認めない(化学 I (II) と化学入門 I (II), 物理学 I (II) と物理学入門 I (II), また、微分積分学ST I (II) と微分積分学入門 I (II))。外国語科目は英語以外の1つの外国語のみを卒業要件に含むことができる。

※2 化学入門 I・II は、それぞれ高等学校で「化学」を履修していない、あるいは「化学基礎」のみを履修している学生が対象。化学入門 I・II を履修する場合は、指導教員の指導を受けること。化学 I と化学入門 II の様な組合せは認めない。

※3 農林経済学コース、植物開発学コース、循環畜産学コース、農林共生学コースの4コースのうち1つを選択して履修する。16単位を超えて履修した「選択必修科目」は「選択科目」として扱う。

※4 コース専門科目における選択科目には、専門教育に関連するものに限り、他学科または他学部が提供する専門科目を自由選択科目として6単位までを卒業要件に含むことができる。ただし、教職科目および博物館学関係の各必須科目は自由選択科目に含むことはできない。自由選択科目の履修は、指導教員と十分に相談すること。